

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1174300408		
法人名	株式会社 ノエル		
事業所名	グループホーム ノエル本庄		
所在地	埼玉県本庄市小島1丁目1番34号		
自己評価作成日	令和5年1月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和5年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「人が人らしく」…認知症になっても、その人らしさを大切に一人一人の利用者様を一人一人の職員が「どのようにしたら快適な生活を送っていただけるのか？」を考え、利用者様のペースに合わせて、一人一人に合った個別ケアを行っています。1か月のうちにいくつかある行事では職員がその都度考え楽しんでもらっています。また、コロナウイルスが施設に入り込まないように、毎日の健康観察、職員のマスクの着用、消毒、換気を欠かさずに行っています。利用者様、家族様に安心してもらえるように、「顔写真入りの「ノエルletter」」、「LINEのビデオ通話」に加え、玄關先でのソーシャルディスタンスに配慮した面会を始めました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

・コロナ禍で自分達は入居者にとって何が出来るかを考え、事業所内での様々な取り組みを充実させている。管理者だけでなく職員も知恵を出し、ボウリングを実施したりおやつ作りでフルーツサンドを作ったりし、入居者にも喜んでいただいている。また、毎月入居者1人ごとに「ノエル本庄Letter」を作成し家族に届けることで、家族からの信頼感、安心感が得られている。
 ・運営推進会議については、書面形式をとり、入居者の状況にプラスして写真も取り入れ、家族だけでなく近隣の住民にも配布され「心が伝わる」との評価を得られている。
 ・目標達成計画については、令和3年度は厚労省通知を満たし、外部評価の実施は緩和されたものの、災害対策で地域住民と協力しての避難訓練の実施を取り上げたが、コロナ禍で実現されず今後も続けて取り組む予定とされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様が「人が人らしく」生活できるように日々考えケアに努めている。	「人が人らしく」の理念のもと認知症であっても人格を否定することなく、尊重しケアに努められている。入居者と家族、親を思い安心して過ごしていただき「自分だったらこうされたら嫌」なケアはしないよう心掛けられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方に野菜などいただいた時に一緒にお礼をししたり地域の一員として自覚していただけるよう努めています。	近隣を散歩中に地域の方々に挨拶を交わしたり、となりの家まで回覧板を届けることで地域の一員としての関わりを自覚いただいている。コロナの感染状況をみながら少しずつ近所づきあいを広げ、以前のように子供達や猫と触れ合う機会を作れるよう検討されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣散歩の中で、近所の方と挨拶を交わす等しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はコロナウイルス感染拡大防止の為中止しています。開催月には社会福祉協議会、近隣住民、ご家族様へ施設の様子を写真付きで送っています。	運営推進会議は、書面形式をとり、事業所や入居者の状況をわかりやすく記載した文書に写真をプラスして家族、近隣住民に配布されている。「心が伝わる」との評価も得られている。今後は行政や関係機関の情報を得て再開することも検討されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の空き状況の報告、グループホーム同士での情報交換会等に積極的に参加し。協力関係を築くよう取り組んでいます。	市担当者との連携は日常的に図られ、コロナワクチン接種などの市からの情報はスムーズに受け取られている。また市内のグループホーム管理者が集まり、情報交換を実施され「面会はどのようにか」や「認知症対応の悩み」などの話し合いが行われ情報の共有を図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が「身体拘束とは何か？」を勉強し理解しています。また研修アプリを導入しいつでも好きな時間に勉強できるよう取り組んでいます。	「身体を拘束するだけではない」ということを前提に「言葉の強弱、無視」も拘束・虐待にあたることを職員に周知するよう取り組まれている。動画を使った研修、勉強会も行われ「どうしてそれが拘束なのか」の意味を考えるよう指導されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員にその気がなくても「言葉の暴力になってないか？」等みんなで話し合い防止しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	いつでも閲覧できるよう資料を設置したり、アプリを使用した研修を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行っています。また不明点はいつでも受付し安心していただけるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来園時の際や、利用者様に変化があった時など、その都度連絡させていただき、要望など話し、運営に反映しています。	入居者からの意見は「～が食べたい」が多く、行事食などを取り入れ対応されている。家族との信頼関係は「ノエル本庄レター」をもとに築かれ、意見というよりも感謝の言葉が多く寄せられており安心されている様子が伺える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2か月に一回だったケース会議を1か月に一回のケース会議にし意見を言える場の回数確保しています。	事業所全体に意見や考えが言い易い環境で「おしゃれサロン」「めだかすくい」「果物レク」など職員は様々な意見やアイデアを出し実施されている。ケース会議では職員全体で話し合い、より良い取り組みへの改善も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員一人一人の質を把握し、職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修アプリを導入し、スキルアップできるよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問はコロナ禍の為控えていますが、他同業者と情報交換したりし良好な関係を作っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しく入所された方には最初にコミュニケーションを多くとり、顔を覚えてもらったり本人様へ安心していただけるよう傾聴したりしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困り事、不安な事を聞き、安心して生活していただけるよう勤めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じて他サービス利用も説明し、希望があれば対応させていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物をたたむ、食器を拭く、掃除をする…等、その方ができることを一緒にやっていただき関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	玄関先でソーシャルディスタンスに配慮した面会を行い、本人様とご家族様の絆を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	上記と同じですが、他、お相手様が帰った後、利用者様とコミュニケーションを図り、思い出話をしてもらったりしています。	面会は玄関先で人数を制限して実施されているが、なかなか来られないひ孫さんが来られたときは入居者にも抱っこしていただいている。また、昔なつかしい遊びや「8時だよ全員集合」や「アンパンマン」のビデオをみて昔を思い出して楽しまれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が関われるよう集団でレクリエーションを行ったり、座席を変えてみたりしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても、ご家族様に様子を聞き関係性を大切にしています。また看取りだったご家族様からも「おばあちゃんがしまい込んでいたもの(お皿等)を施設に寄付したい」等話して下さるご家族様もいました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分で訴えられる方は無理をせず可能な限り希望を聞き対応しています。	言葉の少ない入居者とは視線を大切にアイコンタクトをとり、表情や仕草から思いを汲み取るよう取り組まれている。下の名前で呼びかけて親しみを増すこともあり、居室や入浴時に1対1での会話を通して思いや意向の把握に努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の前に、情報提供していただく他、入居してから利用者様へ話を聞き把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ること、できない事は利用者様一人一人違う為、日々の生活の中で観察し記録し、情報共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	問題点について話し合いをし、意見交換して介護計画に反映させています。	具体的でわかりやすいケアプランが作成され、家族からやアセスメントなどからその人に合った情報が盛り込まれている。入居者、家族のニーズ、そして目標、さらにサービス内容に至るまでに一貫性がみられ、現場の支援にも十分活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個別に記録し職員がいつでも情報共有できるようにし、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に応じて柔軟な支援をしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の情報収集をし、コロナ禍ですが参加できるよう支援していきたいです。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、ご家族様の希望を第一に考え適切な医療を受けられるよう支援しています。かかりつけ医が判断できない場合はご家族様と相談し違う医療機関へ受診したりもしています。	往診医が月2回入られ、非常勤看護師が立ち合い医師の指示のもと医療行為、服薬管理が行われている。かかりつけ医や専門医への受診は管理者が付き添い、医師からの情報は職員間のラインで共有されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間連絡体制をとり、いつでも相談できるように、また週に一回来園し状態の観察を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急時は速やかに対応できるよう、協力医療機関との関係性を築いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前に調査を行ったり、「終末期」について話し合いをし、本人様と家族様の要望を出来るだけ取り入れています。	家族の意向「痛くなく、苦しくなく、積極的治療は望まない」には話し合いを重ねて対応されている。状況の変化に合わせて家族の理解を得られるよう努められ、重度化へのリスクなども説明されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故時に備えて手順等掲示しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行っています。通報訓練では外国籍の方も参加していただき、ノエルの住所や人数の把握、どこから出火しているのか等消防署の方に話す練習をしました。	夜間想定訓練に特に力を注ぎ、注意点や避難の流れなどの確認がなされている。ハザードマップの確認も行われ、火災や地震だけではなく、雹や突風、竜巻などの自然災害への対策も今後は加えていきたいと考えられている。	事業所周辺で起こりうる災害のひとつに雹や竜巻などの自然災害が考えられることから、それらを対象とした対策＝何が出来るか、備蓄はどうするかなどを検討され対策を立てられることに期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人の性格や人権を尊重し情報を職員が共有し合い、その方に合せた言葉かけを行っています。	排泄介助や入浴介助時ドアを閉めること、更に介助時は目線から離れ、羞恥心への配慮をするなどの取り組みが行われている。入居者の話されていることには否定せず受容するなど、1人ひとりを尊重した対応がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	失語症の方もいるので相手が自己決定できるような言葉かけをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	利用者様が自由に過ごせるよう一人一人のペースに合わせ、希望に沿って生活できるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	顔の汚れや衣類の汚れは気づいたらすぐに声をかけきれいにしよう心がけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後、食器を拭く手伝いをしてくれたり、「味付けどう？」と食事前に味見をしてもらったりと食事が楽しめるように支援しています。	手作りにこだわった食事が提供され食事形態などは普通食、キザミ、ミキサーなどの情報もみんなで共有されている。外食は難しいがテイクアウトでクリスマスにはピザ、お正月には寿司などが準備され入居者にも喜んでいただいている。	見た目にもすばらしい手作りの食事が提供されていることから、家族にも知っていただけるように献立やその写真などを送ることでアピールされる取り組みに期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一か月に一回体重測定を行ったり、食事、水分は細かく記録し一人一人の状態の把握に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科時、口腔内の状態や、口腔ケアのやり方について確認し口腔内の清潔保持を行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者が出来ること、できないことを見極め、残存機能を生かせるよう支援しています。	自立を目指しトイレ排泄を基本に支援が行われ、衣服の上げ下げもやれることはやっただいて いる。羞恥心に配慮した声掛けに徹底「出た？」とか「匂うね」といった言葉は禁句とされ、入居者に安心いただいている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないよう、水分補給をしたり、園内散歩をしています。他、主治医や看護師に相談しながら排便コントロールをしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めず、声をかけ本人様に確認しながら入浴をしています。	週2回のペースで入浴され自分でできることはやっただき、介助はあくまでも洗身できない部分に限るよう取り組まれている。湯船につかれな入居者にはバスタオルを体につけて、その上からシャワーでお湯をかけるなどの工夫も図られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温、湿度の管理をしたり、シーツ交換を定期的に行い安心して休めるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に薬の変更があった場合や副作用について等、薬剤師から指導があり、その後申し送り等で職員に周知しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	大きなイベントでは、室内全体の装飾に力を入れ、その季節に合わせたレクリエーションを行い気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為外出は控えています。	近隣の散歩、幼稚園や公園に車で桜を見に行くなどの外出支援が行われ、庭先に出て外気浴、中庭に出て花火を楽しむなどの支援もなされている。入居者の体力維持のため感染対策をして外に出る機会を増していくことも検討されている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	「あれ食べたい」「これ食べたい」等訴えがあった時に、ご家族様と相談をし使用できるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある場合には、できる限り対応しています。また往復はがきで手紙が届く方もいて、お返事を本人様交えて書かせてもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症の方でも居心地よく生活できるように、フロアの消息を毎月変えたり、適時、室温、湿度を測り管理しています。	季節感を大事にし食事を作る匂いや音も聞こえ、生活感も味わうことができる共有空間作りがなされている。テレビがみえやすいように、また落ち着いて過ごせるようにレイアウトにも気配りがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時の表情を汲み取りながら利用者様のペースに合わせて過ごせるよう支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の前に、空いている部屋を見学していただき、使い慣れたものの配置等、相談し、居心地よく過ごせるよう配慮しています。	各居室に温度計が設置され、部屋ごとに適した温度管理がされている。居室での「自由」も大切にされ、イベント参加なども無理強いくことなく、新聞を読んだり好きなことを楽しみ、「人が人らしく」の理念の考えが活かされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることは積極的にやっていただき、少しでも自立した生活が送れるよう支援しています。		

(別紙4(2))

事業所名:グループホーム ノエル本庄

目標達成計画

作成日: 令和 5年 4月 12日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策	・継続した地域住民との協力体制の強化。 ・職員の防災教育の徹底。	・近年発生した雷や竜巻時の対策を考え周知徹底する。 ・細かい部分(備品等)の再確認を行う。	12ヶ月
2	40	食事を楽しむことのできる支援	・コロナ禍ということもあり、施設内へ立ち入れない家族からの信頼と安心を得る。	・1ヶ月に1度「今月の人気メニュー」を作成し、献立や写真はもちろんのこと、気を付けている点や工夫している点も記載する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。